

<p>11 JICA中部 なごや地球ひろば</p> <p>川淵 貴代</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>ものづくりを支える裾野の広い産業分野、実は盛んな農業や観光資源を軸とした地域活性化</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 名古屋駅から徒歩でアクセス可能ななごや地球ひろば ものづくり技術・哲学を生かした研修 複数の自治体が連携して取り組む下水道修繕 	<p>10 JICA北陸</p> <p>松柴 由佳</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>世界農業遺産に認定された能登の里山里海、伝統工芸と先端技術、北陸新幹線開業に向けたおもてなし精神</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 精密機メーカー、自動車リサイクル企業などによる中小企業振興 世界農業遺産つながりのフィリピン・イフガオの棚田保全 	<p>9 JICA駒ヶ根</p> <p>瀧沢 浩一</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>健康長寿県として培ってきた地域医療のノウハウ、信州弁「ずく」に象徴される労を惜まない精神</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> JICAボランティアが派遣前に訓練を受ける駒ヶ根訓練所 派遣前の訓練生との地域交流 「世界一幸せな国」ブータンを紹介する講演 	<p>8 JICA横浜</p> <p>松宮 愛</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>日本最大規模の港町として培ってきた港湾、水道、水産などの技術、日系移民の交流の歴史</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 水道事業をはじめとする横浜市との連携研修 日系移民の歴史が学べる海外移住資料館 研修員も参加するみなとみらい地区の清掃活動 	<p>7 JICA地球ひろば</p> <p>衣斐 友美</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>都心部の利便性を生かし、国際協力の窓口となる“見て、聞いて、触って”学べる体験型施設</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の国際協力が一目で分かる展示 駐日大使館お墨付き料理が味わえるカフェ 途上国の“今”を教えてくれる地球案内人
---	--	---	--	---

<p>16 JICA沖縄</p> <p>若杉 裕司</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>島しょ性と亜熱帯性、独自の歴史と文化、“いちゃりばちよーでー（一度会ったらみんな兄弟）”の精神</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体、中小企業との強力な連携 水資源管理など島しょ地域の強みを生かした技術 沖縄県系人ネットワークとの連携 	<p>15 JICA九州</p> <p>田中 宏幸</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>「環境モデル都市」として、公害克服や高齢化社会など日本が直面する課題に先進的に取り組んできた経験</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 上下水道整備、廃棄物管理など自治体のノウハウを生かした技術協力や研修 産官学連携による技術開発と活用 地域の優れた技術の発掘 	<p>14 JICA四国</p> <p>花岡 潤</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>四国4県合わせて100以上、国内シェア1位を誇るニッチトップ企業が培ってきたものづくりのノウハウ</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 地場産業を生かした中小企業の海外展開 四国5大学との国際協力連携講座 地元で根差した国際協力NGOの活躍 	<p>13 JICA中国</p> <p>川本 寛之</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>過疎化・少子高齢化が進む中で取り組んできた中山間地域の開発、平和都市ヒロシマとしての平和構築</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> サンフレッチェ広島と連携したスポーツ分野の国際協力 地域の遺産を生かした平和構築分野の研修 青年海外協力隊OB・OGによる地域おこし活動 	<p>12 JICA関西</p> <p>小野 済</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>阪神・淡路大震災の教訓を基に、この20年、自治体や市民が熱心に取り組んできた防災活動</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子が楽しく学べる防災教育「イザ！カエルキャラバン！」 神戸市消防局による自主防災組織「BOKOMI（防災福祉コミュニティ）」活動
---	---	--	--	--

特集 地域発の国際協力 ニッポン魂が生きる

日本に国際協力が広がる！

あなたが暮らす地域にあふれている国際協力のヒント。JICA国内拠点のスタッフがそのポイントを紹介します！



<p>3 JICA東北</p> <p>永見 光三</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>日本海から太平洋に至る山川里海の資源を生かした多様な営み、厳しくも豊かな自然と共生する知恵と工夫</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災からの復興・復旧の経験共有 青年海外協力隊OBが地域復興推進員として活躍 農漁村振興と環境保全など持続可能な社会への挑戦 	<p>2 JICA北海道(帯広)</p> <p>佐藤 恭之</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>日本最大の食料基地である十勝地方が育む畑作や畜産、食の安全・安心に配慮した農業経営と地域振興</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 食と農林漁業をキーワードに、アジア諸国とつながる「フードバレーとかち」 帯広畜産大学の学生が参加する青年海外協力隊のグループ派遣 	<p>1 JICA北海道(札幌)</p> <p>坂元 芳匡</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>豊かな自然、寒冷な気候、開拓の歴史を生かした北海道ならではの農林水産業や地域開発</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道と開発途上国が“win-win”となる食と観光分野での事業展開 寒冷地技術を生かした上下水道整備や住宅建設などの支援
<p>6 JICA東京</p> <p>丸川 櫻子</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>産官学が集中する首都圏ならではの豊富な情報とノウハウ、多様な経験と技術を持った人材</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国最大規模のJICA研修員の受入拠点 中央省庁、地方自治体の強みを組み合わせた研修 埼玉県が実施する「埼玉・アジアプロジェクト」の支援 	<p>5 JICA筑波</p> <p>鈴木 俊康</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>全国2位の農業産出額を誇る茨城県、研究学園都市として研究機関が集積するつくば市の専門性</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内1位の農業産出額の銚田市が取り組む官民連携による市場志向型農業振興 JICA筑波内にある圃場を生かした実践的な農業研修と地域の人と研修員の交流 	<p>4 JICA二本松</p> <p>永井 涼</p>  <p>国際協力に生かされている地域の特性は？</p> <p>開発途上国と地域を結ぶ結節点となっている、JICAボランティアが派遣前に訓練を受ける二本松訓練所</p> <p>今のイチオシは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 派遣前の訓練生が、東日本大震災の応急仮設住宅、地域の農家や幼稚園などで行うボランティア活動 1ターンした青年海外協力隊OB・OGによる地域振興

外の視点から 自らを振り返る

上下水道整備、廃棄物管理、防災対策、産業振興……。どれも私たちの日々の生活に欠かせないものだが、それ故に、あつて当たり前」と捉えてしまいがちだ。

しかし、それらを支える技術や制度の裏側にあるのは、先人たちの絶え間ない試行錯誤と揺るぎない努力。何にも取って代わることができない財産だ。

そして今、そんな日本の地域の強みを生かした国際協力が広がりをを見せている。

さまざまな苦難に直面しながらも見事に戦後復興を遂げ、世界で指折りの経済大国と呼ばれるまで発展した日本。「現在も少子高齢化や過疎化など課題は山積していますが、どのように地域を盛り上げていくか、それぞれの地域が工夫しながら奮闘を続けています。その過程で生み出されたものは、実はこれから発展へと向かう開発途上国でも応用できるものが多いのです」と、日本と途上国の地域づくりを携わってきた龍谷大学の西川芳昭教授は話す。

国際協力は、はるか遠い国

の経験を途上国に伝えることは、新たな出会い、発見にもつながっている。西川教授は自身が研究フィールドとしてきた長崎県小値賀町で、まさにそのような場面を目の当たりにしたという。佐世保港から高速船で1時間半、人口約2700人の小さな町。豊かな自然に囲まれている一方、若者の減少や医療施設の不足など、離島ならではの課題を抱えている。「さまざまな国からJICAの研修員が訪れるようにな

で、限られた人がやる特別なもの。そんな風に思っている人も多いかもしれない。しかし身の回りにあるものこそが、途上国の国づくり、地域づくりの実践の場で大いに力を発揮するのだ。

連携で広がる 地域ぐるみの国際協力

とは言っても、日本の地域の人たちにとっては、国際協力は初めて取り組むには少し敷居が高いのも事実。さらに自分たちの経験が途上国でどう生きるのか、自身では気付きづらいものだ。

そこで橋渡し役となっているのが、世界各地で国際協力に取り組んできたJICA。長年にわたる現場での活動を通して、日本の地域が国際協力に貢献できるポテンシャルを実感し、途上国との「結節点」として全国に国内拠点を設置（4／5ページ参照）。途上国の文化や習慣、日本の国際協力について学ぶことができるイベント、学校への出前講座、途上国からの研修員の受け入れなどを通じて、地域の国際協力の足がかりをつくっている。

また、日本の人たちが自ら

り、町の人たちは彼らからの指摘を通じて、地域の資源の価値を意識できるようになっていきます。異文化交流にとどまらない学びが、国際協力から生まれているのです」。

グローバルゼーションが進み、外国人居住者が増えている日本では、今まさに、多文化共生の地域づくり、グローバル人材の育成が求められている。地域の宝を生かした国際協力は、その一歩となるに違いない。

栃木県日光市に連なる山々を望む電車と田園。日本各地には、それぞれの特性から生み出された知恵や技術があふれている(写真：山梨将典/アフロ)

特集 地域発の国際協力

ニッポン魂が生きる

日本各地に散りばめられている知恵や技術。あなたの身の周りの“ちょっとしたこと”が、実は、開発途上国の課題解決に役立っている。

編集協力：龍谷大学経済学部 西川芳昭教授